

令和 5 年 5 月 2 9 日
健康福祉部 疾病対策課
0 4 3 - 2 2 3 - 2 5 7 4

感染症予防のための情報提供について

病名	腸管出血性大腸菌感染症（O157）		
住所	松戸市	年齢・性別	4歳・女性
職業等	未就学児	症状等	溶血性尿毒症症候群（HUS）、 腹痛、水溶性下痢、嘔吐、発熱
発病年月日	令和5年5月17日	届出年月日	令和5年5月25日

松戸市在住の4歳の女性が、腹痛、下痢等の症状を呈し、松戸市内の医療機関に入院し、腸管出血性大腸菌感染症及び溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断され、松戸保健所に発生届が提出された。

なお、現在、患者は入院中である。

〔患者発生の経過〕

5月17日 軟便、発熱

5月18日 症状継続のため、松戸市内の医療機関 A を受診

5月20日 下痢

5月22日 発熱、嘔吐

松戸市内医療機関 B を受診

5月23日 医療機関 B を受診、医療機関 C へ救急搬送

5月25日 医療機関 B から腸管出血性大腸菌感染症の発生届が提出される

5月26日 輸血、透析開始

〔県民の皆様へ〕

- 調理や食事の前、動物や土に触った後には、必ずせっけんを使用して十分に手を洗いましょう。
- 肉を調理する場合は、中心部まで十分に加熱しましょう。また、「生肉を扱う調理用の箸やトング」と「焼けた肉を扱う食事用の箸やトング」とを必ず分けましょう。
- 溶血性尿毒症症候群（HUS）など非常に重症な状態になる場合がありますので、下痢、血便等の症状がみられた時は、早めに医療機関を受診しましょう。
- 社会福祉施設、介護保険施設、学校等においては、日頃から施設利用者等の健康管理に注意しましょう。

【参考】

腸管出血性大腸菌とは

1 感染経路

- 腸管出血性大腸菌は牛など家畜の腸管内にすることがあり、その糞便で汚染された食品や、糞便で汚染された場所を触った手指から経口的に感染する。

2 腸管出血性大腸菌とは

- 腸管出血性大腸菌感染症は O157, O26 が主な原因であり、その他には O111, O121, O145 などがある。

3 潜伏期間

- 2～5 日がもっとも多い。

4 症状

- 水様便から血便まで見られる。
- 嘔吐
- 溶血性尿毒症症候群（HUS）になる場合もある。

*HUS とは

溶血性貧血、血小板減少、急性腎障害の 3 主徴をもって診断する。一般に HUS は腸管出血性大腸菌感染症の患者の約 1～10%に発症し、下痢あるいは発熱出現後 4～10 日に発症することが多い。

5 治療

- 対症療法
- 脱水に対する処置
- 抗菌薬療法

6 年別発生状況（腸管出血性大腸菌感染症届出数）

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年※
千葉県	148	124	131	149	28
全 国	3,744	3,088	3,236	3,352	409

※千葉県分は 1 月 1 日～5 月 26 日までの累計(本件を含む)。全国分は 5 月 26 日現在。